

NO.11



あやめ通信



大人版
2月号

小説

垣谷美雨『墓じまいラブソディ』

佐伯泰英『夢よ、夢』

嶋中潤『ここでは祈りが毒になる』

白川尚史『ファラオの密室』

湊かなえ『人間標本』

新刊案内

1/10～1/25

あらすじ紹介

白川 尚史『ファラオの密室』 宝島社

「紀元前1300年代後半、古代エジプト。死んでミイラにされた神官のセティは、心臓に欠けがあるため冥界の審判を受けることができない。欠けた心臓を取り戻すために地上に舞い戻り、自分が死んだ事件の捜査を進めるが…。」

(Tool内容紹介より引用)

まさかのエジプト、まさかの死者が探偵！さらに先王のミイラが消えて別の場所で発見されるという事件も…。

本書はそのユニークな設定が評価され、2023年の「このミステリーがすごい！」大賞作品に選ばれています。

実用書

川島隆太『本を読むだけで脳は若返る』

魚に魅せられた研究者たち『道南おさかな図鑑』

ワークショップ探検部『そのまま使えるアイスブレイクのアイデア帳』

↑先月の新刊の一部を紹介します。↓今月のおすすめの1冊を紹介します。

今月の1冊

Jam

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』



『ザイム真理教』や『墓じまいラブソディ』、『じい散歩 妻の反乱』など、パワフルなタイトルが立ち並ぶ中、こちらも負けておりません、『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』。

嫌なことがあってそのことで頭がいっぱいになっていた著者に、友人がいった一言が「多分そいつ、(以下略)」だったそうです。自分が気にしたところで相手はその言動すら忘れているだろうから気にするだけ無駄、というのは頭で分かっている、モヤモヤと引きずってしまう…。そんな中、この「多分そいつ、(以下略)」はストンと腑に落ちて納得できたとのこと。

皆様も、頭では分かっているけど心がいまい、という経験があるのではないのでしょうか？もしくは「多分(以下略)」と同様に、知っていた事・言葉でも出会い方によって妙に腑に落ちたような経験もあるかもしれません。

本書では「多分(以下略)」を含め、計64の言葉を猫の4コママンガとともに紹介しています。言葉とマンガだけなら10分ほどで読めてしまうので、気軽に手に取ってみてください。

学文ニュース

児童書新刊コーナーがスッキリしました

図書館側入り口の児童書新刊コーナーの机を変えてみました。見た目もスッキリとして、本も手に取りやすくなったのではないかと思います。

懐かしき斎藤隆介の『花さき山』(タイトルで分からずとも、表紙を見れば分かる人が多いかと)など、大人にこそささる児童書もございます。いつも借りていく本にプラス1冊、こども向けのコーナーから選んでみるのはいかがでしょうか？



↑ 低いテーブルの本はあかちゃんから小学校1・2年生向け、高いテーブルの本は小学校3年生から高校生向けとなっております。

↑ 先月学文であったできごとなどを紹介します。 ↓ 今月の学文の予定を紹介します。

☆温かいものを食べましょう

春まではあと少しですが、寒暖差も激しくなってきます。一層体調に気をつけていきたいですね。

そこで何冊か、体の温まるレシピ本を紹介します。

◎高嶋純子『罪悪感なしのひとり鍋ごはん』より「酸辣湯(サンラータン)風鍋」。鶏ガラの下地にお酢とラー油をきかせた酸辣湯。鍋にすればひと皿で済みますし、酸味がきいているのでちょっと食欲がない時にも食べやすいと思います。絹ごし豆腐に長ネギたっぷりがおススメ。

◎有賀薫『帰り遅いけどこんなスープなら作れそう』より「大きなつくねのはるさめスープ」。帰りが遅くなければ、つくねに切ってレンチンしたヤーコンをいれても美味しいです。

◎吉澤まゆ『からだが温まるとろみのレシピ』より「トマトの中華風卵とじ」。コンセプトからは外れますが、これを町産のトマトで、ニンニクとラー油を少し入れて作ったら絶対に美味しい…。夏が待ち遠しいです。

2月のカレンダー

定休日:毎週月曜日

開館時間:10:00~18:00

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		
	休館日					